

平成26年12月定例会

まちづくり常任委員会会議録

招 集 月 日	平成26年12月8日（月）
会 議 場 所	市役所 5階 理事者控室
開 会 日 時	平成26年12月8日（月） 午前9時02分
散 会 日 時	平成26年12月8日（月） 午後2時47分
委 員 長	谷口 達郎
委 員 会 出 席 委 員	
委 員 長	谷口 達郎
副 委 員 長	橋本 稔
委 員	阿部 慎也 田中 克美 秋谷 修 加藤 孝
委 員 会 欠 席 委 員	
委 員 外 議 員	なし
傍 聴 者	なし

議 題

議 案 番 号	件 名	審 査 結 果
第 106 号	鴻 巣 市 都 市 公 園 条 例 の 一 部 を 改 正 す る 条 例	原 案 可 決
第 107 号	市 道 の 路 線 の 認 定 に つ い て	原 案 可 決
第 108 号	公 の 施 設 の 指 定 管 理 者 の 指 定 に つ い て	原 案 可 決
第 109 号	公 の 施 設 の 指 定 管 理 者 の 指 定 に つ い て	原 案 可 決
第 114 号	平 成 2 6 年 度 鴻 巣 市 一 般 会 計 補 正 予 算 （ 第 5 号 ） の うち 本 委 員 会 に 付 託 さ れ た 部 分	原 案 可 決
第 116 号	平 成 2 6 年 度 鴻 巣 市 農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計 補 正 予 算 （ 第 2 号 ）	原 案 可 決
第 118 号	平 成 2 6 年 度 鴻 巣 都 市 計 画 事 業 北 新 宿 第 二 土 地 区 画 整 理 事 業 特 別 会 計 補 正 予 算 （ 第 1 号 ）	原 案 可 決
第 119 号	平 成 2 6 年 度 鴻 巣 都 市 計 画 事 業 広 田 中 央 特 定 土 地 区 画 整 理 事 業 特 別 会 計 補 正 予 算 （ 第 1 号 ）	原 案 可 決
第 120 号	平 成 2 6 年 度 鴻 巣 市 水 道 事 業 会 計 補 正 予 算 （ 第 1 号 ）	原 案 可 決
第 121 号	平 成 2 6 年 度 鴻 巣 市 下 水 道 事 業 会 計 補 正 予 算 （ 第 2 号 ）	原 案 可 決

委員会執行部出席者

（都市整備部）

都市整備部長	藤	間	高	志
都市整備部副部長	新	井		浩
都市整備部副部長	武	藤	幸	二
都市計画課長	中	井		誠
建築課長	白	井	邦	昌
市街地整備課長	島	田	友	光
市街地整備課副参事	神	田	英	昭

（建設部）

建設部長	長	島	祥	一
建設部副部長	小	谷	野	幹
道路課長	田	沼	文	男
工事課長	原	口		正
下水道課長	金	井	利	明
水道課長	小	峰	栄	一
吹上支所副支所長	鵜	飼	能	志
川里支所副支所長	馬	橋	陽	一

書記	森	田	慎	三
書記	藤	平	美	由紀

（開会 午前 9 時 0 2 分）

（委員長）ただいまからまちづくり常任委員会を開会いたします。

委員会記録の署名委員を指名いたします。田中克美委員と秋谷修委員にお願いいたします。

これより本委員会に付託されました案件の審査を行います。

本委員会に付託されました案件は、議案第106号 鴻巣市都市公園条例の一部を改正する条例、議案第107号 市道の路線の認定について、議案第108号 公の施設の指定管理者の指定について、議案第109号 公の施設の指定管理者の指定について、議案第114号 平成26年度鴻巣市一般会計補正予算（第5号）のうち本委員会に付託された部分、議案第116号 平成26年度鴻巣市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）、議案第118号 平成26年度鴻巣都市計画事業北新宿第二土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）、議案第119号 平成26年度鴻巣都市計画事業広田中央特定土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）、議案第120号 平成26年度鴻巣市水道事業会計補正予算（第1号）、議案第121号 平成26年度鴻巣市下水道事業会計補正予算（第2号）の議案10件であります。これを直ちに議題といたします。

それでは、審査の方法についてお諮りいたします。初めに、議案第107号を議題とし、執行部からの説明の後、休憩して現地視察を行います。その後再開し、質疑、討論、採決といたします。そのほかの議案については、議案番号順に執行部から説明の後、質疑、討論、採決の方法で進めたいと思います。この方法でご異議ございませんか。

（異議なし）

（委員長）ご異議なしと認め、決定いたします。

初めに、議案第107号 市道の路線の認定について執行部の説明を求めます。

（道路課長）おはようございます。それでは、議案第107号 市道の路線の認定、1路線についてご説明申し上げます。

それでは、議案及び本日お配りさせていただきました参考資料の公図の写しもあわせてごらんいただきたいと思います。今回の路線の認定につ

きましては、1路線ということでございます。これは開発事業に伴う路線の認定でございます。

では、図面ナンバー1の市道G-317号線でございますが、起点を鴻巣市神明3丁目932番617地先とし、終点を同932番675地先とします幅員4.5メートル、延長62.35メートルの路線でございます。

なお、今回認定する開発道路につきましては、一部補修を要する箇所がありますので、その補修を行うことで開発事業者とは調整が事前に済んでおりますので、ご報告させていただきます。

以上、1路線の認定をお願いするものでございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

（委員長）説明が終わりました。

これより現地視察のため、暫時休憩いたします。

（休憩 午前9時06分）



（開議 午前10時00分）

（委員長）休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議案第107号について質疑を求めます。質疑はありますか。

（田中）1点、道路幅について聞きたいのですが、先ほどのところでは4.5メートルという説明を受けましたが、鴻巣市の場合は4メートルで多分よかったと思うのですが、各市町村によって4.2だったり4.3だったり4.5だったりというのが多分あると思うのですが、その基準というのはどのような基準でその幅を決めているのか。今回の場所は、ぐるっと回っていたので、車の通行の関係で気持ち広いのかなとか勝手に想像はしたのですが、その辺の基準についてわかっている範囲で教えていただきたいと思います。

（道路課長）今回の開発につきましては、開発面積は1,640.73平方メートルということでございます。この道路幅員が4.5メートルといたしますのは、市の開発指導要綱によりますと、1,500メートル以上6,000平方メートルにつきましては、この範囲内にあるものについては幅員が4.5ということになっております。これは住居系のものが4.5というような基準にな

っております。1,500平方メートルから6,000平方メートル以下ということでございます。未満ということです。

以上です。

（加藤）現場でもちょっと聞いたのですけれども、コの字型の両サイドに細長い長方形の土地がわずかながら両方あるのですけれども、こういったところを開発する場合は、こういうふうに道路の接道要件とならないようにするというのが一般的というか、そういう形でなされるのでしょうか。

（道路課長）これにつきましては、既存の宅地に対して道路ができることによって道路斜線制限であるとか、そういった制約が出てきますので、あえて接道しないような形にしてあります。接道することによって、土地の利用増進ですか、これも図れるとは思いますが、接道させないことで事業者のほうは考えたということです。

以上でございます。

（加藤）この場所に限ってそういうことがなされたという、その時々、ケース・バイ・ケースで違うということでしょうか。

（建築課長）開発を行う場合、どうしても道路をつくるということがございまして、その道路をつくることによって、既存の建物自体に道路ができることによる道路斜線の制限が新たに生じてしまうケースがございます。そういった場合に、新たに開発する道路と既存の宅地の間にそういった未利用地、今回25センチでしたか、がそういった形で設けるケースが多い状況でございます。

以上です。

（加藤）道路を設けることによって新たな制限が起きてしまうという、その具体的な内容についてはどういったことなのでしょう。

（建築課長）道路ができることによって、そこに道路斜線制限という建築基準法上の制限が新たに出てしまうと。

ただ、これについては、都市計画法に基づく開発道路であれば、既存のお住まいの家の印鑑証明付きの承諾をとって接道させてしまうとか、そういうことは問題ないのですけれども、基本的にそういった制限が加わ

るということを新たな開発事業者が嫌って、25センチあけるという状況が多いわけでございます。

（加藤）くどいようですけれども、道路制限というのをわかりやすく説明してもらい、道路斜線制限ですか。

（建築課長）道路に対しまして、例えば何かあったときに道路側に建物が倒壊して崩れてこないとか、そういう形で一定の道路からの建物の制限が加わるわけでございます。そういったものが、後から道路ができることによって、既存のもう既に隣地ですから、30センチ程度の犬走りをあけて建物ができている中で、新たに道路がそこにできてしまうと、そういうことによって既存の不適合が生じてしまうという内容でございます。よろしいでしょうか。

以上でございます。

（阿部）以前から道路の幅については、開発面積に応じて道路の幅が決定するということは私も前に聞いて知っていました。今回見せていただいた場所については、隅切りが非常に広く大きくとってあって、これはいいなというふうに思ったのだけれども、この隅切りについての基準というのは実際あるのかどうか、その辺のところをお尋ねします。

（建築課長）都市計画法29条の開発という内容を捉えた場合に、技術基準の中で隅切りの詳細の基準がございます。

ただ、先ほどごらんいただいた開発道路につきましては、片側の隅切りという手法を使って開発されたものでございまして、あくまでも都市計画法上の隅切りについては、道路に対する直角にぶつかった場合の隅切りの基準になってございまして、それ以外につきましては、道路課のある意味32条、32条というのは都市計画法上の公共施設管理者との協議の中で決定されるものでございます。

（阿部）では、今回の場合はすごく隅切りが大きくとれているというのは、これは基準以上の隅切りをつくったのかな、それともいわゆる基準に合致した隅切りの寸法だったのか。例えば幅4.5メートルの道路については、1.5メートル掛ける1.5メートルとかというような詳しい基準があったら教えておいていただきたい。

（道路課長）それにつきましては、開発エリア内につきましては、辺の長さが２メートル、２メートル、底辺の長さが３メートルということになっております。開発道路から出る既存の道路のところにつきましては、隣地まで巻き込むというわけではございませんので、片隅切りということで底辺の長さが４.２５、辺の長さが３メートルというふうに片側が大きくなっております。

以上でございます。

（橋本）今回の認定については１件だけだったと思うのですが、これは開発が少なくなったということでしょうか。これからの予定もたくさんあるということの中で、今回だけが１件なのか、それちょっとお伺いしたいなと思います。

（道路課長）開発につきましては、この開発の完了、市のほうへ引き継ぐ、市のほうに所有権が移転されたのがたまたまこの１２月議会の前ということで、今後につきましては、また３月議会もあろうかと思いますが、多いのか少ないのかというのは私どもではちょっと把握しておりません。

以上でございます。

（委員長）ほかに質疑はありませんか。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第１０７号 市道の路線の認定について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

(委員長) 挙手全員であります。

よって、議案第107号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第106号 鴻巣市都市公園条例の一部を改正する条例について執行部の説明を求めます。

(都市計画課長) それでは、議案第106号 鴻巣市都市公園条例の一部を改正する条例についてご説明をさせていただきます。

この条例の改正につきましては、上谷総合公園のプール跡地にスケートボード等を行うことのできる施設を新たに設置し、同じく上谷総合公園東側のテニスコートに夜間照明施設を新たに設置したことに伴い、同条例の別表第1中、上谷総合公園の有料の公園施設のうち、サッカー場の次にスケートパークを加えたものに改め、また別表第4の上谷総合公園テニスコート利用料金の表中のテニスコートの下に附属設備の夜間照明30分、350円を加えたものに改め、上谷総合公園サッカー場利用料金の表の次に、上谷総合公園スケートパーク使用料金、一般1日200円、中学生以下100円の表を加え、その附帯事項や施行の日、またその準備行為について定めたものとなっております。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

(委員長) 以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

(田中) 今スケートボードの件に関してスケートパーク、ちょっとお聞きしたいのですけれども、この間の説明では、説明に基づいてこの間私が計算したところ、1日20人ぐらいしか来ないのではないかなという計算だったのですけれども、200円で20人ということは4,000円、そのぐらいの料金で管理人とかを置くというような話だったと思うのですけれども、当然金額からそれを勘案すると、合わないのではないかなと。そこに市外の方は倍額というのが多分あったと思うのです。それを考えても金額的には売り上げ見込み、そんなにないと。これはよその、現在やっているところの1日当たりの人数を何か説明したと思うのですが、それに基づいて計算したのだけれども、年間350日稼働でということ

7,000万だったかな……1日20人ぐらいかなと。ごめんなさい、この7,000万というのはちょっと間違いだと思う。7,000人だ。7,000人の350日で20人という計算で、たとえ市外で倍であっても今言った4,000円の倍で8,000円、その辺で採算合うのかどうか、その辺の考えはどうなのかということをお聞きします。

（都市計画課長）委員おっしゃるとおり1日20名、約7,000人という形で、他の市町村の同規模のものを参考として来園人数のほうを一応予定をしたところですが、人件費と点検費を足したものを7,000人で割ってみると、一応400円程度にはなると思うのですけれども、近隣の有料の施設を調査させていただいたところ、1日200円というか、1回200円というところが多い状況でしたので、その金額を一応採用させていただいていると。

（田中）今料金的にはよそもそんな、同じ同一というようなことだったので、市外、市内だと、多分市外の人の方が多いかと、利用する人が。ちょっと特殊なので、市内の人ばかり来るとは思われませんが、それでも倍ということでも1万円にも満たない金額でして、将来的に指定管理なりにした場合、採算を考えた場合にどうなのかというのがあります。その後は、保守点検費を考えたときに、その辺はどのような基準で考えたか、もう一回ご説明願いたいと思います。

（都市計画課長）指定管理者の収支については、ちょっと今後また検討していかななくてはならないかとは思いますが、当初無人の状態で開設した場合に、使用のルールとかをある程度取り決めをしておかない場合、大きなけがとか起きる場合がありますので、ある程度ルール化をするために有人化をしておりますので、現時点だと、採算性というのとは今のところ考えてはいない。今後、検討はしていかななくてはならないと考えています。

（田中）あと道具というのは、自分で持っていくのがほとんどだと思うのだけれども、貸し出しとかというのに関しては考えがあるのかどうかということをお聞きします。

（都市計画課長）防具とか滑走する道具ですか、それについては持ち込

みでしていただくという形になると思います。

（加藤）テニスコートの夜間照明なのですけれども、30分、350円ということで新設をされました。それで、テニスコートの終了時間というのがありますよね。コート进行借りて夜間照明をつけるという、夕方になると、そういう形になってくると思いますけれども、テニスコートの使用時間は1時間ということになります。照明は30分ということですが、これについては、時間ごとの照明使用料というのは考えなかったのでしょうか。

（都市計画課長）利用開始時間、要するに日の入り等で変わってきますので、利用中に必要となった場合、コートの利用時間と照明の照らす時間というのが異なりますので、利用者の負担を軽減するために一応30分単位ということにさせていただきました。

（加藤）コートの貸し出し時間は大体9時ごろになることが多いと思うのですが、テニスコート、夜間。そうしますと、9時となると全く暗くなりますよね、全く暗くなってしまふ。それで、9時にぴしっと夜間照明が切れてしまふのか、それとも5分くらい余裕を持って、道具をしまったり、何か後片づけがありますよね。そういった若干の余裕、だから利用者に便宜を図るのかどうか、その辺をお聞かせ願いたいと思います。

（都市計画課長）これは、管理事務所でチケットを買っていただいて、それで機械に投入して実施していますので、その時間を過ぎると自動的に9時で消える形になると思います。

（加藤）そうすると、9時といいますか、利用時間までということで、その時間の範囲内に、例えば10分前ごろ終わらせて全部道具を片づけたらなんなりするという必要があるという、そういう解釈でよろしいのですね。

（都市計画課長）はい、そのとおりです。

（阿部）スケートパークについては、いわゆる料金を徴収するに当たって、詰所みたいなのを恐らくつくらなければいけないと思うのです。その詰所はどういうふうになっているのか、どういう計画で、どういふも

のを設置するのか伺っておきます。

（都市計画課長）今後スケートパーク場内に簡易的な事務所を設置をしていくと考えております。

（阿部）通常管理人は1人置くということなのでしょうけれども、交代交代で一応何人を予定しているのか。それはこっちが用意するものではないから、別か。わかる範囲で。

（都市計画課長）一応1名の予定ではいますけれども、同時に指定管理が入っている場所もありますので、そちらとの併用運用も検討していきたいと考えております。

（阿部）それと、スケートパークというのは、とにかく利用者同士の中でトラブルも発生するケースが非常に多いということも伺っている。そんな中で、トラブルが発生した際には警察にいち早く通報できるような、そういう体制づくりというのはどういう形でしているのか。

（都市計画課長）そちらの通報の方法についても開園までの検討課題だと考えております。

（阿部）それと、これについては非常に危険が伴うということを、かつて私が一般質問した際に伺った経緯がございまして、もしもの場合、けが人が発生した場合、これは応急処置をするような、そういう備えというのかな、これはあらかじめ用意するのかどうか。

（都市計画課長）その準備はしておりませんので、自己責任で全てやっていただくという形になります。

（阿部）この前保険という話が出ました、本会議の席で。その保険についても全て自己責任というような答弁だったと思います。だとすれば、やはり当日の1日保険とかというのがたしかあるはずなので、そういったものにも加入していただくような、そういうあっせんというのかな、そういうのはこの場合はやらないのかな。

（都市計画課長）現在のところ、それは考えておりません。

（秋谷）夜間照明の話、テニスコートのほうの話はあったのですが、スケートパーク、勝手な私の見立てだと、やっぱり夜間の利用者というのは結構多いのではないのかなという気がするのです。平日の夜、

サッカーとかそういうのも皆さん練習をしてやっているようなので、この資料を見る限りだと、ちょっとどこかに照明が立つようなものも見えないのですけれども、夜間の利用をどういうふうに想定しているのでしょうか。料金的には、一般も中学生も1日料金ということで取っているのですけれども、やはりテニスコートが夜の9時までの稼働を考えると、スケートパークというのも夜の部分というのはどうなのでしょうか、稼働時間も含めてお伺いします。

（都市計画課長）照明施設を備えておりませんので、現在のところ夜間の使用については、考慮はしていません。

（秋谷）せっかくなので利用者の分布が確かにあけてみないと、何時ごろにやっていただけるものかというのはわからないのですけれども、ただ平日の昼間はやらないですよ、普通は。平日休みの方もいらっしゃるかもしれないのですけれども。そういうことを考えると、やっぱり夜間にいろんな、体育館を使うような球技とかは当然夜間、平日皆さんやっているのです、当然のように平日の夜間、利用できるような環境というのは利用者本位に考えれば、やらないとよろしくないのではないのかなと思うのですけれども、内部での検討でどういった議論があったのですか。

（都市計画課長）夜間実施した場合、民家もちょっと離れてはいるのですけれども、あるものですから、その影響とか、あと利用状況を今後ちょっと確認をさせていただきながら、ある程度一定のルールづくりができれば、将来的には検討する必要があるのではないかという形では考えておりますけれども。

（秋谷）スケートパークの利用料金を決めるに当たって、他市というか、ほかの状況を参考にされたというようなお話があったと思うのですけれども、そういったときの他の施設というものは、夜間というのはどういう扱いをされていましたか。

（都市計画課長）近県ですと、無料で実施しているところから有料でやっているところもありますけれども、全体として多いのは昼間のみを想定している。夜間を想定している場合については、夜間のナイター使用

料も徴収をしているという状況になっていると思います。

（秋谷）どっちかというところ、その資料の中で伺いたいのは、平日の夜間利用する方がどれくらいいらっしゃるのか、平日の昼間利用する方がどれくらいいらっしゃるのか、土日の利用が圧倒的に多いのか、そういったところはわからないですか。

（都市計画課長）申しわけありません。その点については、ちょっと調べてはあります。申しわけありません。

（委員長）ほかによろしいですか。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第106号 鴻巣市都市公園条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第106号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第108号 公の施設の指定管理者の指定について、公の施設は鴻巣市鴻巣駅東口第1駐車場となりますが、執行部の説明を求めます。

（市街地整備課長）続きまして、議案第108号は、鴻巣市鴻巣駅東口第1駐車場の指定管理者の指定についてでございます。これは地方自治法第244条の2の規定に基づき、公の施設の設置目的を効果的に達成するため、平成27年4月1日から平成32年3月31日までの5年間、高砂丸誠エンジニアリングサービス株式会社に指定するものでございます。

なお、資料1といたしまして、高砂丸誠エンジニアリングサービス株式

会社の概要を添付しております。

また、資料2といたしまして、今回の第1駐車場の指定管理者の候補選定の選定結果について1次審査、2次審査の点数表も添付しておりますので、ご参照いただきたいと思います。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

（委員長）以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

（田中）エルミこうのす駐車場の駅に近いほうが多分第1で、映画館のほう第2と解釈しているのですが、それはよろしいですか。

（市街地整備課長）そのとおりで、ショッピングモールのほうが第1駐車場で、映画館等の駐車場が第2駐車場になります。

（田中）この利用方法なのですが、とりあえず今の議案は第1のほうですね。第1のほうの利用方法なのですが、あそこの南のほうからやって来て左側に入って、まず入るところが1カ所あります。ちょっと変則な入り方というか、信号機まで行って左に入ってすぐ、あれ飛び込みはなかったでしたか。それで、それは2階までだったかな、行けるのが。あいている、あいていないとかの状況に応じて、皆さん、先に左に入ってしまうのですが、信号を越えて、また左に曲がって左に入る方法のほう利用勝手が下のほうにとめられるというのがあると思うのですが、出口に出るところは、2階から7階までであるのでしたか、今。同じかなと思うのですが、その管理をやっている、今言っている丸誠何とかでしたよね、高砂丸誠エンジニアリングサービス、昔ただの丸誠だったところだったと思うのですが……質問になっていないので、もう一回ちょっと整理しますけれども、今の管理状況というのが何となく利用者にとって今の周り方、入り方、そして5階か6階あたりの旧のマンションの上ですか、駅に近いほうの合体するところがありますよね。あの辺の利用状況のちょっと変則の管理状況というのは、今までに話し合われたというか、そういう協議がなされたことはあるのですか。

（市街地整備課長）管理状況の話し合いというのは行っていないと思います。

また、今冒頭お話しありましたように、ちょっと入り口が変則的な部分というのは、駅のロータリーから入った入り口、ショッピングモールの前面から入るとダイレクトで3階の駐車場に入るような形で、映画館からの間の道路を入っていきますと2階ということで、あの合流に関しては当然黄色のランプが点滅しますので、事故等の予防といえますか、そういう部分は配慮しているのですけれども、全体的な先ほど申しました話し合いということはないと思います。

（田中）今の入り口の2階までのと、その上に関する事故等々はないと思うので、今話し合いとかないということなのですが、その上の5階か6階のところの合流するところが多分あると思うのですが、一番上というか、屋根の上で。あそこが出たり入ったり、みんなぐるっこ、ぐるっこやって、何かにらめっこではないけれども、一旦入ってしまうと、流れが、矢印が何かいいかげんになってしまっていて戻ってしまったりなんかする、右回りだ、左だというのが不規則になってしまっているように思われるのですけれども、その辺の管理というのに関しては、一切今までトラブルなどはなかったのですか。要するに電気自動車の充電するあたりです。

（市街地整備課長）駐車場の入庫に関しては、原則一方通行でございます、中の走路にしても。そういう中で、先ほど申しました充電器のある部分も確かに合流はございます。それは優先車線と停止線とでとまれ標示ということで、その部分に関する標示が薄ければ、標示をもう一回塗りかえるですとか、配慮はしなくてはならないと思うのですけれども、原則の中では一方通行ですので、この間の出会い頭の事故というのは、私の記憶の中ではございません。

以上です。

（田中）では、高砂丸誠エンジニアリングサービスが管理している状況なのですが、出口の2カ所から出てくるやつだけを管理しているのですか、ほかのところというのは全てどこかでモニターなりを見て管理をしているというふうに思ってよろしいでしょうか。

（市街地整備課長）入庫、出庫は当然ガードマンがついて、一般の来客

等も含めて停止するときは停止をして、安全を確認してから入庫と出庫の確認は出口と入り口でさせていただいております。

また、入り口、出口のほかに、各階層のモニターカメラが駐車場の管理棟の中で配備されておりますので、駐車場の中の利用状況、また運行状況等については、モニタリングをしている状況でございます。

以上です。

（田中）では、今度指定に当たり、他社の入札というか、丸誠以外に多分今度の指定に当たり、来ていると思うのですが、その点数を見ると、そんなに差異がないように感じるのですけれども、今までにやっていた実績、会社名がちょっと変わっているけれども、やっていた本体は同じだというふうに解釈して、そういう理由で採用したのか、まるっきり点数のみで採用したのか、その辺ちょっとお聞きします。

（市街地整備課長）ことしの7月の16日に募集要項を行いました。約1カ月間の募集期間の中で、採点表にございます3社が仕様書に基づいて募集の応募をしてきました。その結果の配点表が資料の1の結果でございます。

ただ、委員先ほど申しました前回やっている業者だからということでは決してございません。新たに公募の中から1次審査、2次審査を経て、今回、前回同様の高砂丸誠エンジニアリングに決定したわけでございます。名前につきましては、ことしの10月1日から合併等を行いまして名前が変わっております。

以上でございます。

（田中）最後に、今の会社名、合併によるということなので、組織、規模等の違いというのは、合併ということですから当然売り上げ、人数ぐら이가違うということだと思うのですが、その辺の状況について最後にお聞きします。

（市街地整備課長）基本的には、丸誠さんが吸収されたような形で、新たに細かい資料はちょっときょう持ってこなかったのですが、高砂さんのほうに吸収されて、この駐車場専門で今までのスタッフ自体は変わらないのですが、そういうことでございます。

（加藤）職員の管理体制なのですけれども、審査表の資料2を見ますと、50点満点中44点が高砂丸誠、B、Cが38点、28点と非常に差が出てくるのですけれども、この辺の職員というのは、あそこに張りついている、あそこというか、現場に張りついている職員と、また本部のほうの職員の体制の系統組織図、そういったことでちょっと細かくなりますけれども、何人ぐらいをそれぞれ3社見ているのでしょうか。

（市街地整備課長）高砂丸誠さんは、エルミショッピングモールのビル自体の管理を現在しております。その中で、特に駐車場の今回の指定をお願いする管理につきましては、入庫するところが常備1名、出庫するところも常備1名なのですが、基本的には1日のうちで3回転の体制をとりながら、休憩等を含めてビル管理も合同で回しているような状況でございます。具体的な人数の張りつけは、ちょっとこちら応募要項等、きょう持参してこなかったもので、もし休憩の時間等のときでしたら、具体的な張りつけの人数をお示ししたいと思います。

（加藤）地元雇用の配慮が25点満点中17点と3社とも相当低いのですけれども、これについては、その後2次審査でヒアリング等やっていますが、指導というか、もうちょっと高めるような指導というのはしているのでしょうか。

（市街地整備課長）プレゼンテーションの中でも、3社は地元雇用というものには力を入れるということをはっきりしております。

ただ、その中で実際採用といいますか、指定を受けた場合に、今後採用計画等も当然立てるわけでありますので、基本的には地元からの募集をするということで3社から伺っておりました。現在の指定管理業者も地元雇用に積極的に行っておるのが現状でございます。

（加藤）あとは予算の関係なのですけれども、今回補正予算のほうで債務負担ですか、声が出ていますよね。2億何千万ですか、出ていますけれども、これは単純に見て5年ということで、そうやって割った金額が新年度予算として出てくるというふうな考えでいいのでしょうか。

（市街地整備課長）この後、債務負担行為の中で詳しくご説明させていただきますけれども、5年間の総トータルのマックスの数字がこの額と

いうことで、今後承認をいただいた後には年度協定という形で毎年毎年協定を結んでいきますので、5年間のマックスという数字でございます。

（阿部）108号の資料―2を見せていただいているのだけれども、その中でその事業計画書の内容が当該事業計画書に係る経費の縮減が図られるものであることという部分があります。これに関連して、結局前回の指定管理及び今回の指定管理料金、この推移はどうなっているのか。

（市街地整備課長）平成22年から平成26年までの5カ年で、第1駐車場につきましては4億534万4,000円でございます。それで、今回債務負担行為の関係でご提示させていただきますが、平成27年から平成31年までの5カ年は2億6,355万円でございます。この差の大きさというのは、今までビル管理費の負担金も指定管理料の中に入れさせていただいておりました、平成22年から26年までは。来年度からはビル管理負担金は別に予算立てをして、指定管理外で計上をしております。それは合計で算定をいたしますと、指定管理料も含めた中でビル管理も入れますと、来年度のビル管理予定額が2,268万6,000円で、それを5カ年かけたのと今回の2億6,355万円を足しますと、同じ条件にいたしまして27年度からの合計額が3億7,698万円です。また、先ほど申しました今までの過去5年間は4億534万4,000円ですので、今までの5年間と今後の5年間を比較しますと、2,836万4,000円の減額の中での対比になります。

以上でございます。

（阿部）いや、安くなってよかったなというふうに思いますけれども、これはもう一度経験しているのですから、当然いろんな中身を知り得た上で安くなるのは当然かなと、ある意味そう思います。

それと、2次審査の中で、指定管理者となる意欲と熱意という部分が、これ評点、満点で50、そのうち高砂丸誠は43点、B社も43点、C社も38点、この管理者となる意欲と熱意というのは、これは本来であれば満点に限りなく近くなければいけないのだらうと思うのです。だとしたら、43点、7点マイナスは何が原因で7点マイナスになったのか、何が足らなかったのか、その辺のところについて伺っておきたいと思います。

（市街地整備課長）市といたしましても指定管理の選定に当たり、当然

ながら平等性、また業者間におけるコンプライアンスの関係ですとか、特に経費の縮減、また管理をする上での管理の効率化、また管理能力、あといろいろな部分での情報管理面、あと先ほど加藤委員からお話がありました鴻巣市の市営駐車場ということで地元雇用、数多くございました。その中で、各選定委員さんの意見結果、点数結果を踏まえた中での平均点がこのような形で高砂丸誠さんとB社が43点、43点ということで、C社においてはちょっとかなりかけ離れた提案等があったもので、このような差になったわけですけれども、意欲といいますと、どこの会社でも意欲あると思うのですけれども、その中である程度選定委員さんの方の中でのポイント、ポイントの中でこのような結果が出たと推測しております。

以上です。

（阿部）今申されたことは、もう第1次審査の中で評価されているわけですね。ここで改めて2次審査の中で指定管理者となる意欲と熱意ということでもって、これは問うているわけなのだけれども、本来であれば先ほど申し上げたとおり、意欲と熱意なんていうのは、もう本当満点に近くなければ、これは指定管理者として安心して任せられないなと。意欲と熱意がなくて、どうして指定管理を受けようなんていう気になるのか、これはどこの分野で考えてみても、最低でも50点満点だったら48点とか49点でなければ、あるいは満点であるとかというのでなければ、やっぱり意欲に欠けるなというふうに思わざるを得ない。何としてもこれからもしっかりとした目で行政側として指定管理者を管理する部分についてもやっていっていただきたいなというふうに思います。これは要望にとどめておきます。

（秋谷）このたびの108号の高砂丸誠エンジニアリングサービスは、過去指定管理でやっていただいていたのですけれども、その間利用者からの苦情とかトラブルという報告はどれくらいあったのでしょうか。

（市街地整備課長）入庫車の関係ですとか料金の関係も含めて毎月報告は上がっております。その中で、トラブル的な苦情は、あっても月1件ぐらいです。それはなかなか入り口が詰まっていたですとか、中は当然

誘導員はいませんが、その中で正直なところ、お客さんも利用者、下のほうがいいということで、なかなか上しかあいていないですとか、あと各エレベーターのホールのところにご意見番ということで、市独自でご意見のボックスを置いております。結構いたずら紙が多いのですが、その中で使い勝手も含めて要望があったのは、月例の報告のときにおいて指定管理者のほうにこういう形で利用者の方から意見が出ているということで、基本的には改善に向けて努力をするということで、お互いに認識をしながら、お客さんに不都合が生じないように、また使い勝手が悪くならないように改善はしておりますけれども、極端に物すごくクレームというのはございません、現在のところは。

以上です。

（秋谷）何かの本で、クレームをいかに処理するかによって、どれだけサービスが向上するかというのがあるのですけれども、構造上の問題もあるからやむを得ないところもあるかと思うのですけれども、オープンが19年の10月で、既にもう平成26年の12月なわけですから、7年経過する中で補修関係はどんな感じで出ているのでしょうか。今までそんな大規模な補修は聞いていないのですけれども、あの震災のときも。そういった面での管理状況というのはいかがなものなのでしょう。

（市街地整備課長）基本的には路面の補修と先ほど申しました一方通行ということで、路面の標示、それについては薄くなった部分というのは順次塗りかえといいますか、標示を新たに利用者の方にわかりやすくするというところでございますけれども、大きな改修というのは、私の記憶の中ではございません。

ただ、地震等の影響で、多少いろいろ天井部分ですとか傷んだ部分においては補修を地震以降にしたということですが、直近でいいますと、路面等の標示でお客さんが利用しやすいように案内をきちっとするというところでは逐次行っているところでございます。

以上です。

（秋谷）あともう一点、私もたまに利用させてもらうのですけれども、よく誰もが先ほどお話のあったように、下のほうにとめたいせいか、上

がってからぐるっと中を見て、あいているところを確認して、こう行くようなお客様が結構いらっしゃるように見えるのです。そのたびにあいているかな、どうかなといって車がとまって、つかえてしまっているような状況があるのですけれども、中に内部のセンサーか何かの、駐車センサーか何かというのはつけることというのは可能なものなのでしょうか。みんなあくかな、あかないかなといって待って、車がとまってしまっている状態が結構多いのですよね、車待ちをしているような状況。あるいは、中をわざわざぐるっと一周回ってきて、確認をしてまた上へ上がって、またもう一周してというようなのが見受けられるようなのですけれども、私が利用している中では。そういった改善策というのは設けられないものなののでしょうか、当然指定管理の中で。

（市街地整備課長）なかなか難しい問題で、そういうセンサーを設置することによって、どのくらいの費用がかかるかもちょっと推測できないのですけれども、基本的に入庫のときにあきと満車ということで表示されているわけです。その中で、例えば3階、4階までが満車の表示が出ていれば、スムーズに5階へ行っていただければいいのですけれども、実際満車という表示になっても、100%満車では正直なところないのです。2台から3台程度があいていても満車の表示にはなります。それは設定をしているわけなのですけれども、そういうことをご存じのお客様さんかわからないのですが、なかなか上へ行く前にどこか1台あいていないかということで、時には一方通行なのですけれども、一方通行ではなくて、あそこがあいているというので、回らないでダイレクトで入っていく、ちょっと違反的なお客さんもいるのですけれども、そういうことで基本的には入り口の表示に沿ってご利用いただくしかないのかなというふうに現状の中では思っているのですけれども。

（橋本）1点だけ、2次審査のさっきのヒアリングについては、利用者からの声の反映ということが、丸誠さんが39点でB社が42点、これはどうしてこの差があったのか、どういう点だったのかちょっと教えていただきたいと思います。

（市街地整備課長）実質、今のB社、かなり駐車場の管理を高砂丸誠に

比較をして実績等はあるように私も感じておりました。その中で、かなりその辺の横の連携、縦の連携も含めて、提案書が他の２社に比べて優秀であったのは確かでございます。実績でそれなりの駐車場管理というものに精通した業者かなというふうに私個人では思っていました。恐らく選定委員さん、皆さんの結果がこういう数字になりましたので、実績を踏まえてノウハウを持っているなということで、声の反映という点においてもやはり高かったのかなというふうに感じております。

（橋本）ということは、丸誠さんは余り反映していないということで考えていいのですか、そうではないということですか。

（市街地整備課長）この間の５年間の実績を見て、決して利用者を無視していることではございません。先ほど言いましたように、対応も即座に対応していただいていますし、うちからの要望に対しても即座に対応しています。そういう中で、決して今の指定管理業者がそういう部分を怠っているということではございません。

（阿部）つかぬことを聞くけれども、いわゆる駐車場開業当初から今日に至るまで、あそこでもって車上狙いとかそういったことというのは一度でもあったのか。

（市街地整備課長）私、今の課に来て４年目に入りましたけれども、私の知っている範囲では車上荒らしはございません。

ただ、各階層、あれだけのスペースがありますので、消防等の指示の中でかなり消火栓はあるのですけれども、ことしに入って２回、高校生程度の男女なのですけれども、消火栓の噴射ですとか、あとたばこの吸い殻をほかの車両の上にこぼしたですとか、そういういたずらはございますけれども、車上荒らしまではまだ現在のところ私は承知しておりません。

以上です。

（阿部）監視カメラか何か全部ついているのでしょうか、あの階に。

（市街地整備課長）各階についておりまして、全部警察に届けて、そのビデオ等も全部報告をしております。

ただ、実際捕まっていないのが現実なのです。特に消火器の噴射は、後

ろ姿ですとかある程度映っていましたがけれども、警察がその後、補導して注意したという報告までは至っていないと思います。

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第108号 公の施設の指定管理者の指定について、公の施設は鴻巣市鴻巣駅東口第1駐車場となりますが、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第108号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第109号 公の施設の指定管理者の指定について、公の施設は鴻巣市鴻巣駅東口第2駐車場となりますが、執行部の説明を求めます。

（市街地整備課長）続きまして、議案第109号は、鴻巣市鴻巣駅東口第2駐車場の指定管理者の指定についてでございます。これは先ほど同様、地方自治法第244条の2の規定に基づき、公の施設の設置目的を効果的に達成するため、平成27年4月1日から平成32年3月31日までの5年間、株式会社マルイファシリティーズに指名するものでございます。

同様に資料1としまして、株式会社マルイファシリティーズさんの概要と、同様に資料2といたしまして第1次審査の審査結果、第2次審査の審査結果を添付してありますので、ご参照いただきたいと思います。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

（委員長）以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

（加藤）先ほどの第1駐車場ですと、入庫と出口のところに職員を1人

ずつ配置するということだったですけれども、第2駐車場については、出口のところに1人配置ということでもいいのでしょうか。

（市街地整備課長）第2については、入り口も出口も原則人はついておりません。

（加藤）出口は、あれ人がいない。人がいないのに管理体制というのがありますよね。資料の第2なのですけれども、組織図、職員ということではいろいろ差が出ていますけれども、ではこの職員というのはどういうところに配置されている人なののでしょうか。

（市街地整備課長）駐車場の管理室とビル管理を兼ねた管理室が線路側のほうに荷さばきをする場所があるのですけれども。

（加藤）線路側。

（市街地整備課長）線路側です。そこに常備2人ついておりまして、駐車場自体は65台という狭いところですので、お客さんのほうから呼びブザーがあれば、1分もたたないうちにすぐ現地へ向かうことはできるような体制はとっております。

（加藤）第1駐車場と第2駐車場の関係なのですけれども、第1駐車場のほうから第2、エルミのほう、アネックスビルのほうへ向かいますよね。あそこのところに通路がありますよね。通路といいますか、2階のところの通路。あそこに最近はずき傘が置いてあるのですけれども、ずき傘が置いてあって雨のときは大丈夫なのですけれども、直接これとは関係ないかもしれないですけれども、あそこに簡易な屋根をつけるようなことはできないのでしょうか。

（市街地整備課長）原則通路といいましても、あれは道路施設構造物ということで歩道橋的な扱いです。前もいろいろ検討した結果、屋根をつけますと、今度建築物等の関係がありまして、現状の中ではかなりの難しい協議が出てくると思います。ですから、現状の中では両側にずき傘を設置をして、雨の日ですとかには利用していただくということと、あと雨の日、かなり下の面が滑るというお客さんもございます。そういうことで、エルミ側と、あとアネックス側との管理会の中で今調整をとっているのですけれども、今後滑りどめのシールを、消耗品になってしま

いますけれども、シールを張りながら、利用者の方の安全確保と、雨のときには置き傘を利用させていただくという形で現行の中では対応しております。

以上です。

（加藤）そうしますと、予算上、設置が難しいということではなくて、構造物としての建築基準法上、なかなか計画できないというふうな状況という、そういう理解でよろしいのですか。

（市街地整備課長）はい、それで理解していただいたほうがいいと思います。

（阿部）第2駐車場の指定管理については、B、Cとありますが、その中にB、Cの中に高砂丸誠は入っているのか入っていないのか。

（市街地整備課長）高砂丸誠さんも手を挙げてきましたので、入っています。

（阿部）普通考えると、高砂丸誠が両方受けてしまったほうが合理的だと思うのだけれども、にもかかわらず、こっちはこっちでもってマルイファシリティーズ、これが受けるということに結論的になったわけだけれども、一遍に両方受けてしまったほうが安上がりでいいのではないのかなと、普通の考えだと思うのだけれども、何がこうしてこうなったのかわからない。そんな中で、マルイさんがここで勝ったという要因というのは一体何があったのか。確かに点数でもって開きが出ているわけなのだけれども、一般的には高砂丸誠がやったほうがいろんな意味でいいのではないかなと思うのだけれども、何かわかる範囲で結構です。

（市街地整備課長）一番大きな差は人件費でした。今回のご指定いただこうとしているマルイファシリティーズさんは、現在図書館棟のアネックスビルも今一括管理している会社でございます。そういうことで、ビル管理と駐車場管理を一体化しながら警備をすることによって、相当人件費が違いました。

また、当課といたしましても道路1本隔てて第1駐車場、第2駐車場ということで、一括に指定管理という考えも持っておりました。その中で、いろいろ検討したことの結果なのですが、第2駐車場を無人にして、現

在の第1駐車場からの遠隔操作等も含めて、何か異常があったときにすぐ第1から第2へ向かうような体制等も考えたのですけれども、その前段の遠隔操作と、あと事務所の多少の改修を含めると、ざっくりな見積もりなののですけれども、500万円程度ちょっとかかるということで、今回の募集は第1、第2の別に要項をつくりまして指定した結果、このような結果になったわけでございます。

以上です。

（阿部）やっぱり500万円という金額というのは、これは償却できないのかな、5年間もってしても。その辺のところはどうなのだろう。

（市街地整備課長）一括して管理にするという考えを時間的に改修も含めてちょっと間に合わなかったのが第1点の理由でございます。今後の5年間の中では、あれだけ道路1本の中で第1と第2という形で区分されていますので、この次の管理のときには一括管理というものを視野に置きながら、今後検討していきたいと思います。

以上です。

（委員長）ほかに。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第109号 公の施設の指定管理者の指定について、公の施設は鴻巣市鴻巣駅東口第2駐車場となりますが、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第109号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第114号 平成26年度鴻巣市一般会計補正予算（第5号）のうち本委員会に付託された部分について執行部の説明を求めます。

（説明省略）

（委員長）暫時休憩します。

（休憩 午前11時38分）



（開議 午後1時00分）

（委員長）休憩前に引き続き会議を開きます。

以上で114号の執行部からの説明が終わりましたので、これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

（田中）では、30ページ、下のほうのこれ道路維持補修事業、道路管理清掃事業、街路……字が見えないな。街路……

（委員長）街路樹維持管理事業。

（田中）それについて質問したいのですけれども、維持補修事業1,180万円、一番ちょっと金額が張っていますけれども、その概要。それと、清掃事業というのは余り聞かないのですけれども、その内容。それと……

（さっき説明したの声あり）

（田中）しましたか。忘れてしまったので、申しわけないですけれども、またお願いします、では。

（道路課長）30ページの関係でございますけれども、まず道路維持補修事業の需用費の修繕料ということで500万、これにつきましては先ほど午前中、お話ししましたとおり、老朽化した道路施設、附属物等の修繕に要する費用でございます。例えば側溝の部分的な破損あるいは集水ます、あるいはフェンス等の老朽化した部分の安全対策を講ずるための修繕費用ということで、今回補正に上げてあるのは9カ所上げてございます。舗装の部分修繕、側溝ます等が主な内容でございます。

次に、原材料費でございますが、工事用材料費100万円ということで、これは業務職員が行います工事に要するもので、U字フリューム、コンク

リート構造物あるいはふたの購入に要する費用等、そのほか舗装材料等もございますが、そういったものが主なもので、昨今道路の老朽化対策ということで沿道の住民の方々から大分道路の振動、騒音あるいは集中的な豪雨等があつて、どうも水たまりができやすいとか、側溝の流れが悪いとか、そういった中で大分昨今のそういった集中豪雨等で浸水とかそういう危惧するところがあるのかなというふうに思っております。そういった状況の中で、大分市民の関心も高くなっているというものがございます。

次に、修繕用材料ということで580万円計上してございますが、これにつきましては、やはり先ほどの工事用材料とも関連ございますが、舗装の老朽化して穴のあいたところ、あるいは側溝ふたの破損、あるいは砂利を敷いてほしいとか、砂利道に砂利を入れてほしいとか、そういった要望がここに来て大分ふえているということでございますので、修繕用材料費ということで上げさせていただきました。

それと、道路管理清掃事業100万円につきましては、道路の側溝等の清掃に伴って不良土が大分出て、資材置き場にストックしてあるのですけれども、その処分料のほか、コンクリートであるとか舗装の産廃としての取り扱いで処分に要する費用でございます。

続きまして、街路樹維持管理事業につきましては120万ということでございますが、これにつきましては今回予定しておりますのは、富士見通線のイチョウの木あるいは川里地域の工業団地通線ということでケヤキの木が大分伸長しているということでございます。また、けやき通りについても、やはりケヤキのほうは標識が見づらくなっているところとか、あるいは沿道の方の屋根まで越境して、その落ち葉がといの中に入って困るとか、そういったものに対応するための今回の予算の計上でございます。

以上でございます。

（田中）120万の街路樹維持管理事業なのですけれども、パッカー車とか市の直営、持っていると言いましたが、高所作業車の枝おろしのそういうのは、やっぱりリースか何かで借りてやっているのですか。

（道路課長）これは、この委託料というのは、外部発注ということで造園業者等への発注ということで、なかなか高所作業車、その日その日で作業というのはできないし、危険も相当伴うということで、専門家に任せたほうがよろしいということでの委託料でございます。

（田中）了解しました。

では、次に、次のページ、31ページ、三谷橋一大間線用地購入費と物件移転補償料なのですが、これ件数……

（これも本会議で説明があったよ。2件だよ。最終的に進捗率30%の声あり）

（田中）今一応そのようにありましたけれども、では場所的に具体的にお願いいたします。

（道路課長）三谷橋一大間線につきましては、当初説明会等でもやった中で交差点を中心にと、宮地交差点あるいは鴻神社前交差点を中心にとということで、順調にそれぞれの交差点につきましては、皆様のご理解、ご協力のもと、進展しているところでございます。現在においてもそういったところを中心に行っております。

その中で、今般2件、あと代替地1件ということで合計3件出ておりますが、これは具体的に鴻神社交差点から全線480メートルあるのですけれども、おおむね3分の1ぐらい来たあたりのお住まいの方が2件、その近くの代替地1件ということでございます。

以上です。

（田中）あそこの通りで今引っ込んでいるうちとかあるのですけれども、これから話をつけて引っ込む予定のうちもあると思うのですけれども、その辺の交渉に当たっての見通しはどのようなのでしょうか。

（道路課長）この見通しにつきましては、一応事業認可が30年3月までということで、24年の2月の事業認可以来、7年度にわたり行っていくということで、24、25、26と3年が経過しようとしておりまして、現時点で11月末時点でおおむね30%の進捗ということになっておりますので、今後も引き続き皆様のご理解、ご協力をいただくということで、一応目標としますと、事業認可の期間の中で皆さんに相談させていただ

いているという状況でございます。

以上です。

（田中）では、次のページの鴻巣駅東口駅通り地区市街地再開発事業のE地区でしたか、減額補正がなされていたと思うのですが、その交渉というか、そのいきさつについてお伺いしたいと思います。

（市街地整備課長）駅通り地区につきましては、ことしの7月の23日に都市計画の変更に伴う都市計画審議会を開いていただき、賛成多数の中で変更の手続を8月の1日に行いました。その以前に業務といたしまして、地区内の不動産鑑定事業業務委託、それと測量、また建物、工作物等の補償に伴う調査業務委託、全体事業に対する基本設計、それと資金計画等、現在4本の事業の発注を進めております。しかしながら、建築設計及び地盤調査においては、組合設立認可並びに事業認可後でないと発注できない決まりがございまして、今回この2本の業務委託が年度内に組合設立認可が取得できないだろうという見込みの中で見送らせていただくわけですが、予定といたしましては組合設立、組合認可の図書の申請が年度内に提出できればいいかなという現状のスケジュールです。県の認可ですので、おおむね県といろいろヒアリングした結果、最低2カ月、意見書が出た場合にはプラス1カ月を要するということで、未契約での発注が不可能なために、今回減額をする予定でお願いするわけなのですけれども。

以上でございます。

（田中）では、次に33ページの市営住宅の施設維持管理事業なのですが、排水の修繕だと思うのですが、1,600万円もかけてという工事で、あれというのは小松4丁目かな、たつみから行って左側と、かねこや酒屋から行って左というか、あの交差点の脇にある4階か何かの建物でよろしいのですか。

（建築課長）そのとおりでございます。

（田中）あそこだけでこの金額というのは家1軒建つぐらいの修繕の金額なのですけれども、普通塩ビ管か何かの当然取りかえ作業ぐらいではないかなと思うのですが、何でこんなに金額がかかるのかということで

の質問でございます。

（建築課長）委員ご指摘の小松団地４号棟、５号棟につきましては、昭和５６年、５８年に建設されたものでございまして、排水管に用いられた材質が鋼管になってございます。その関係で、水に触れたり空気に触れたりということで老朽化が進んでしましまして、本来排水管の清掃作業は住民の方々によって行っていただくのが原則でございます。しかしながら、本管自体の老朽化が相当進んでいるということで、高圧洗浄がかけられない状況でございまして、それに対応するために今回特殊な工法といたしまして、トルネード工法という工法で管の中を磨きながら、コーティングをして更生を行うという工法で４号棟と５号棟、同時期に建てた団地でございますので、補正をいただき、対応したいというふうに考えてございます。

（田中）今の多分これ下水なんかもやるような方法ではないかなと思うのですけれども、全部取りかえてしまったほうが安上がりなのではないかなという感じはするのですけれども、その辺はどうなのでしょう。

（建築課長）小松４号棟、５号棟の団地でございますけれども、間取りが中央部分に水回りがございまして、例えば本来であればピットの中に排水管が入っている、あるいは表に露出して配管をしてあるということであれば、工法としまして委員おっしゃるような形での対応は可能と考えられますけれども、今回いかんせん、建物の壁の中に本管が入っている状況でございまして、工法としてはこういった特殊なトルネード工法という形での対応をさせていただきたいというふうに考えております。

（田中）最後に、だから今の話はわかるのですけれども、逆に外につけるなり、中につけるなりして、今の現在のやつを使わなくするようなやり方というの也被えられるかなと思うのですけれども、金額的にはそのほうが安いのではないかなと、その辺は検討したのでしょうか。

（建築課長）工法としましては、やはり間取りからして、もう仕方のない状況でこういった工法を用いるしかないという結論に至りまして、この方法で進めさせていただきたいと、このように判断したわけでございます。

（阿部）31ページ、公園維持管理事業、今回のトイレの排水とは関係ないのだけれども、公園の指定管理を引き受けてやってくれている13公園の業者なのだけれども、要するに公園というのは市民に安全であり、憩いと癒やしを与えてくれるような場所でなくてはならないなというふうに私は思っているのだけれども、そこへ持ってきて土曜日の天気のいい日に、ガーガー、ガーガーうるさい機械持ってきて、それこそ小石と一緒に巻き込んでしまう、飛ばすような状況の中で、ほこり舞い上げてやるのはいかがなものかなと。土曜日というと、公園に人が集まる日なのです。案外公園で子どもを遊ばせたりする親たちが非常に多い日なのだけれども、土曜日にやらなくてはならない理由でもあるのか。平日のそれこそ公園に人が余りいないような時間を見計らってやっていただければありがたいなと思うのだけれども、その辺についてはいかがなものか。

（都市計画課長）指定管理の委託期限内に実施しているので、その実施した日というのはうちのほうで把握をしていなかったのですけれども、ちょっと確認をさせていただいて、対処させていただきます。

（阿部）担当の職員には申し上げておいたのだけれども、土曜日にやることはないのではないのかなというふうに言っておいたのだけれども、では連絡がまだ行っていなかったのかもしれないですね、中井さんのほうに。

それと、非常に困るのだけれども、私のところの隣の公園でもって、それこそ天気のいい日に風が南風、それでブワブワ、ブワブワやるとほこりがすごいです。洗濯物干してあるわけです。その洗濯物のことなんかにはやっぱり気を使うというか、配慮をするということなく、全く無関係でやるものだから、この前「ほこり立てるな」と言ったのです。そうしたら、「わかりました」みたいなことを言ってやっていただけれども、でもふだんはそれ言わない限りはブワブワ、ブワブワすごいです。だから、うちのみならず、ほかの公園でもそういったことがありだとしたら、ただ住民は黙っているかもしれないけれども、やっぱりその辺の配慮というのをしっかり業者に徹底すべきだなというふうに私は思っていますので、これ逆の立場で、あの人たちが私のうちに

住んでいて洗濯物干している立場だったら、どういう気になるのかなというふうにも思うのだけれども、何とも思わないのですね。だから、その辺の配慮というのをやっぱり業者にも徹底していただきたいというふうに思います。

以上。

（委員長）要望でよろしいですか。

（阿部）うん。

（加藤）14ページなのですけれども、社会資本整備総合交付金3,200万減額の理由は、組合設立がおくれたために事業ができなかったというようなことなのですけれども、この社会資本整備総合交付金というのは旧まち交と言われていたものだと思うのですけれども、確認ですけれども。

（市街地整備課長）旧まち交でよろしいと思います。

（加藤）それで、この社会資本整備総合交付金の交付対象となる事業は駅前再開発等ありますけれども、ほかにまちづくり常任委員会でどんなところが対象となっているのでしょうか。

（市街地整備課長）まさに総合交付金ということで、ハード面の部分とソフトの面がございます。そのような中で、ちょっと読み上げさせていただきますけれども、総務管理費補助金としてゾーン30事業、ゾーン30といいますのは道路の区間を決めて30キロに制限する、生活安全課のほうでやっている事業だと思うのですけれども。それと、住宅・建築物の安全ストック形成事業、耐震調査関係の。それと、道路、橋梁等の長寿命化ですとか新たな歩道整備、それと市街地再開発に伴う事業費ですとか、あと都市防災総合事業、ですからかなり広範囲の事業に対しての総合交付金でございます。

ちなみに、鴻巣市としては、平成26年度、市の要望予算額として1億910万円の予算要求を補助金額としてしたわけですがけれども、鴻巣市だけでございませんので、かなり全国、全県、市町村において交付金活用事業が頻繁な中で、内示といたしましては減額分に相当するのですけれども、7,638万円の補助ということで、要望に満額交付金がつかなかったというような状況でございます。

（加藤）その補助率というのは何％ぐらいになっていますか。

（市街地整備課長）この事業は単年、単年の事業ではなくて、一つの長期の5カ年の中でのパッケージ事業なのです。その中で、全体事業費の中のおおむね4割です。

（都市計画課長）4割から5割5分、40％から55％までと、その事業の種類によって、また別途あります。

（加藤）15ページなのですけれども、市街地開発基金繰入金4,100万減額ですが、残高は現在どれくらいになっていますでしょうか。

（市街地整備課長）ちょっと調べさせていただいて……

（都市整備部副部長）市街地開発基金繰入金、当初予算で7,000万予算づけがございまして、今回4,100万を減額しますので、2,900万でございします。

以上です。

（市街地整備課長）3億数千万というのが自分の頭の中に残っているのですけれども、細かい数字ちょっと調べさせていただいて、別途委員さんのほうに報告するという……

（加藤）基金残高。

（市街地整備課長）基金残高ですよね。

（加藤）うん。

（市街地整備課長）たしか3億幾らなのですけれども、ちょっと正式な数字、戻ればわかりますので、後でまた……

（加藤）では、後でご報告させてもらいます。

（委員長）加藤委員、それでいいですか。

（加藤）はい、いいです。

29ページなのですけれども、道路境界査定事業費として何か埋設物の探知ですか、探知の機器が壊れたというのですけれども、これはどういうものなのでしょうか。

（道路課長）これにつきましては、道路境界調査の申請等がございしますと、現場に行き立ち会ったりするときに、くいが埋まっている。それが過去のデータでは大体わかっているのですが、どうしても正確な場所

をつかむには、やはり探知器で金属探知器なのです。境界ぐいというのは鉄筋が入っていて、それに磁力線をぶつけて、返ってくる音で反応して、くい位置がわかるということで、そういった機器の備品購入ということでございます。

（加藤）道路境界の申請というのは、主に建物建築なんかが多いと思うのですけれども、昨今の境界申請件数というのは、過去に比べてどうなのでしょう。GDPでいうと、何か住宅着工件数が随分下がってきているというふうな報告もなされていますけれども、その辺どうでしょうか。

（道路課長）それは、この11月21日現在で101件の申請がございました。これにつきましては、建築行為も含みますが、土地の売買であるとか、あるいは開発行為に伴って道路と民地の境界の確定等、もろもろございます。そういった中で、今回11月の21日現在では101件。ちなみに、25年度、1年間につきましては216件、24年度につきましては180件と、これを年間に換算すると大分落ちてきているのかなというふうに私ども認識しております。

以上です。

（加藤）それで、建築関係のあれが設備投資も消費税の関係もあるかと思えますけれども、売買も含めてなのですからけれども、不活発になってきているかなというようなことがこれによっても見られるのかなというふうに思います。

それと、30ページなのですからけれども、街路樹維持管理事業ということで、街路樹、都市計画道路というのですか、大きな道路にはケヤキだとかイチョウだとか、大きくなるような木が植えられていますよね。そうしますと、信号の近くになりますと、それがはびこってしまって、剪定が大変ではないかなと思うのです。年に何回か、1回ですか、大きな木は。剪定しているようですからけれども、信号の近くなんかは要らないのではないかなと思うのですけれども、間近なところは、そこは植えないようにすれば信号がよく見えると、そういった要望みたいのは来ていますか、信号間近なところを剪定してくれとかという要望は。

（道路課長）これにつきましては、市のほうとしましても、まず道路パトロール等もやっております。また、職員の皆さんも現場へ出るとか、お客さんのところへ行くとかで、そういった外出したときに信号等、確認ができない、標識が見えないといったものは、そういう情報をいただいております。あと市民の皆さんからもそういったお話も時たまございます。それにつきましては、やっぱり安全上、安全を最優先ということで早期に対応したいということで、ただ信号の近くにはあまりないのです。横から見ますので、その手前の木なんかも大分影響が出ているというのは事実なのです。そういった場合については、早急に対応しているというのが実情です。

以上でございます。

（加藤）街路樹の関係なのですが、今般新設されました荒川左岸通線の氷川町のところなのですが、あそこ以前からお願いしまして、ツツジの木が結構高くなっていたのです。それで、交差点のところだけ片側だけ低く刈ってありまして、配慮いただきまして、ありがとうございました。

それと、その左側のほうが一部高いところがあるのですが、そこも低くしていただきたいと思いますが。

それと、もう一点なのですが、安野酒屋の通り、信号があるのですが、あそこにやっぱり植え込みがあったのを、あそこを取って歩道を広げたという形になっていきますけれども、それは要望か何かあって歩道を広げたのでしょうか。

（道路課長）まず、荒川左岸の氷川町、こちらにつきましてはオオムラサキツツジということで、かなり伸びが旺盛ということで、毎年毎年刈り込んでおります。交差点直近につきましては、普通のところより30センチから40センチ、半分ぐらいに刈り込んであります。今後もそういう刈り込むということと、状況によったら、少し植栽を撤去して、もう少し安全対策を図っていきたいというふうに思っております。

また、先ほどのガスホルダーのところから安野酒店に向かってのところは植栽の有効幅員が60センチから70センチなのです。そういったところ

は、ことしまで何年かにわたって年次的に、計画的に撤去してきたのですけれども、今後も引き続いて安野酒店からフェルト方面に向かって計画的に撤去していくと。これは沿道の皆さんのそういった要望もございましたが、市としてもやっぱり良好な道路環境というものを目指しておりますので、そういった中で計画的に整備していくということでございます。

以上です。

（加藤）33ページなのですけれども、市営住宅の維持管理なのですが、昨今少子高齢化が進んでおりまして、独居高齢者等が多いと思うのです。それで、独居高齢者の退去の際に、退去というか、孤独死、死亡か何かあると思うのですけれども、その点のそういう際の問題点とか、行政として困っている、そういったことはどんなものがありますでしょうか。

（建築課長）私、まだそのような経験はしておりませんが、入居者に対し、保証人が基本的にはいるという状況でございまして、まずそのような委員おっしゃるような事態が発生した場合には、とりあえず保証人に対し連絡をして、その後の対応等をとる必要があるのかと考えております。

以上でございます。

（橋本）私は、30ページの道路維持費関係で、まず道路維持補修事業というのは9カ所、補正で出してきました。これの優先順位、どういう理由でここを選んだのか。たくさんかなり道が悪いところあると思うのですけれども、この優先順位というのはどのように決めているのか、前も聞いたことあるのですけれども、もう一度お願いします。

（道路課長）これにつきましては、やはり安全ということを最重点に考えております。必要性ということがまず重点。

それと、道路排水なんかが悪いというところ、かなりここへ来て集中豪雨等で市民の皆様、大分心配されているというところに関心がそちらのほうに行っているのかなと思うのですけれども、そういった中でどうしても近くに水の落とせるところがないとか、そういったことからして、ますの設置であるとか側溝の修繕とか水がうまく誘導できるようにやる

ために、安全等含めまして、あと雨水対策、こういったものを中心に行っております。1つは、また沿道の皆さんの振動、騒音、そういったものもやっていると。まずは安全ということを中心に行っております。以上です。

（橋本）あと街路樹維持管理、今加藤委員も荒川左岸通線ということで話をされたと思うのですけれども、ようやく低木を取ってほしいところが今回何か信号がついて、そこはよかったと思うのですけれども、それ以外のしまむらとか同じような状況のところたくさんまだあるのですけれども、あの辺は本当によくすぐ伸びてしまっていて、夏は特に伸びてしまうのですけれども、とにかく事故が結構多いので、何度も何度もいつも取ってほしいという話をしているのですけれども、先ほどこちよっとお話がありましたけれども、これは取らない理由、取れない理由、そういうのはあるのでしょうか。

（道路課長）今まで毎年毎年オオムラサキツツジは刈り込みをやっておりまして、何年か前に通常のところより半分近く切り詰めたというので、ずっとそれで来ておりますが、もう少し切り詰めるようにできないか、ちょっと検討、木の性質上、そこまで切り詰めてもつのかどうかというのがあります。もう少しちょっと検討させていただくということと。安全ということが最優先なのですけれども、やはりそういった中で道路環境、道路の緑化というもの、歩道が4メートル50ございます。そういった中で1メートル50の幅の植栽がございますけれども、なるべく緑化というものも非常に大切なものと市としても考えておりますので、これを撤去するかというより、いかに残して管理をうまくやっていくかというところどうかなというふうに私ども思っております。

（橋本）今その延長で分家通りまで今回やると思うのですけれども、そこは同じように手前のほうにもっと低い木を植えるのだと思うのですけれども、ですからあの公園の程度でいいのではないかと思います。あのヤオコーのあたりも当然ないではないですか。あの一部分だけ、しまむら、あの延長線だけがあの木があるので、我々は取っていただきたいというのが本当に要望でありますので、早目にその交差点の近辺だけで

も取っていただきたいと思います。

あと33ページ、市営住宅関係なのですけれども、小松団地の2棟で排水管ですか、これで1,600万かかっているということは、今ほかの市営団地でもこれからそういうところがどんどん老朽化してくるのではないかと思うのですけれども、それに対して、やっぱりこれからもどんどんこういう状況になったらやらなければいけないと思うのですが、それについてちょっと伺いたいと思うのですけれども。

（建築課長）長寿命化計画がございまして、それに沿って予算要求をしながら、そちらのサイドと調整をしながら進めていく考えでございまして。計画的に。

ただ、予算的な面もございまして、うちのほうの計画に沿った形で進めることがちょっと困難な場合もございまして、その辺はご理解いただければと思います。

以上でございます。

（市街地整備課長）先ほどの加藤委員から質問の出ました市街地再開発基金の残高なのですけれども、平成25年度に1億円弱の積み立てをいたしまして、25年度末で4億3,998万7,143円の25年度末の積立金がございまして。

以上です。

（都市計画課長）先ほど加藤委員のほうのご質問で、社会資本整備総合交付金の補助率についてご質問あったのですけれども、事業により40%から55%とお答えしたのですけれども、40%は事業費の3分の1から上が55%という形になりますので、訂正のほどよろしくお願いします。どうも済みませんでした。

（委員長）いいですか、質疑は。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第114号 平成26年度鴻巣市一般会計補正予算（第5号）のうち本委員会に付託された部分について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第114号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第116号 平成26年度鴻巣市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）について執行部の説明を求めます。

（説明省略）

（委員長）以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第116号 平成26年度鴻巣市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第116号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第118号 平成26年度鴻巣都市計画事業北新宿第二土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）について執行部の説明を求めます。

（説明省略）

（委員長）以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

（秋谷）まずは、職員人件費のところでの説明で、今回職員さんお一人ふやしたということですがけれども、何か事業内容の変化があってふやしたのか、単なる何か別の事情でふやしたのか、そのあたりを詳しく教えてください。

（市街地整備課副参事）25年度に對しまして、26年度は補償交渉等が相当ふえまして、件数にしまして26年度で43件補償交渉をさせていただきました。その交渉に對して、やはり人が必要だということで人を1人ふやしていただいております。

以上でございます。

（委員長）ほかに。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第118号 平成26年度鴻巣都市計画事業北新宿第二土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第118号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第119号 平成26年度鴻巣都市計画事業広田中央特定土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）について執行部の説明を求めます。

（説明省略）

（委員長）以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

（阿部）6ページの保留地売却収入なのですが、ここで141万円あるのですが、これ何平米売却したのかな。

（市街地整備課長）3区画を売却いたしまして、1区画が197.98平方メートルです。全く3画地とも同じ面積で、合計593.94平方メートルでございます。

（阿部）計算機がないので、よくわからないのだけれども、そうすると、平米当たり幾らぐらいになるのだろう。

（市街地整備課長）1区画は平米3万6,000円、これが3万6,000円の単価で2区画ございました。もう一区画は3万7,700円です、平方メートル当たり。

以上です。

（阿部）ちょっとよくわからないのだけれども、593.94平米ですよ、合計で。それで、平米当たり3万6,000円ないし3万7,700円、売却収入が141万円になるの。

（市街地整備課長）細かくご説明申し上げます。

旧街区の4の1という区画が197.98平方メートルでございます。単価にいたしまして平方メートル当たり3万6,000円、土地代金といたしまして712万7,280円でございます。この区画は4の1区画と4の2区画全く同じでございます。

もう一枚の区画が197.98平方メートルで面積は同じなのですが、平方メートルの単価が3万7,700円です。土地代金にいたしまして746万3,846円で、3画地の合計が2,171万8,406円で、今年度の予算が2,030万8,000円ということで、その差し引きが今回補正で増額させていただくものです。

以上です。

（秋谷） 8 ページの一番最後の事業費のところでは物件移転補償料のところでは2件が予定どおりいかなかったというご説明だったと思うのですが、詳しい物件移転ができなかった事情をご説明いただきたいのですけれども。

（市街地整備課長） 名前はちょっと控えさせていただきますけれども、鴻巣一羽生線の通りで川里支所からずっと行ったところに交差点があると思うのですが、隣の赤城台一共和線、こちらが鴻巣一羽生線なのですが、その沿線の交差点付近の家1軒と、それから200メートルぐらい行った角地の家が1軒ございます。再三交渉して、ある程度意向はいただいております。ただ、新たに仮換地と指定する形状等がどうしても交差点付近ということになりますと、かなり停車線に近いということで、本人も出入り等、土地の利用が相当不都合を生じるということで、事業計画、今後変更して、仮換地の箇所づけの変更するというので、本人様から何方か希望の位置をご指名していただいて、来年度には1軒の方には納得いただけるのかなと思っております。

もう一軒につきましては、家を引くのか、新たにご本人とすると建てかえて新築の建物にするかということで、ご夫婦でいろいろご相談なさっていただいて、なかなかその方向性が見えていないのと、お子さんが今年度は受験の年に当たるということで、できれば落ちついてから話を聞きたいということで、2軒ともかなり好意的な状況になっておりますので、来年度ぜひとも契約をいただいて、早目早目の中で県道の整備を埼玉県の方をお願いしたいと思っております。

以上です。

（委員長） ほかに。

（なし）

（委員長） 以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありますか。

（なし）

（委員長） 次に、賛成討論はありますか。

(なし)

(委員長) これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第119号 平成26年度鴻巣都市計画事業広田中央特定土地区画整理事業特別会計補正予算(第1号)について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

(委員長) 挙手全員であります。

よって、議案第119号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩いたします。

(休憩 午後2時10分)



(開議 午後2時27分)

(委員長) 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、議案第120号 平成26年度鴻巣市水道事業会計補正予算(第1号)について執行部の説明を求めます。

(説明省略)

(委員長) 以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

(阿部) 2ページの水質及び保菌検査業務委託1,530万円、これは具体的に毎日やっているのかな、それとも何カ所で何日やっているのか、その辺のことについて伺います。

(水道課長) これは水道法に基づく水質基準に基づく検査なのですが、年にも1回の項目から年に12回、毎月にも1回の項目まで、その項目ごとに分かれております。詳細につきましては、その項目が水質基準が52項目ございまして、過去3年度の水質基準に対する割合、水質基準の何%であるかによりまして実施回数が減ずることができるような項目もございしますので、今全体の資料をご説明することはできませんが、少ないものですと年に1回、多いものですと毎月で年に12回という検査頻度でございします。

以上です。

（阿部） 答弁漏れ。何カ所。

（委員長） 暫時休憩します。

（休憩 午後 2 時 3 2 分）



（開議 午後 2 時 3 3 分）

（委員長） 再開します。

（水道課長） 水質検査の採水箇所でございますが、まず市内 7 浄水場、それと市内にございます水質の自動監視装置、鴻巣地域が 6 カ所、吹上地域が 2 カ所、川里地域が 2 カ所、合計水質監視装置が 10 カ所でございます。

（委員長） 17 カ所だね。

（水道課長） 17 カ所でございます。

（阿部） それ年に 1 回というときもあるわけですね。

（水道課長） 水質基準項目 52 あるわけですが、その中で年に 1 回でいいものから項目によっては毎月やるものというふうに項目によって分かれてございます。

（阿部） 五十数カ目の中で、では毎月やっているものと年に 1 回やっているものとがあって、そうすると、では昨年度の実績は都合何回やったのかな、合計で。難しいですよ。

（委員長） 暫時休憩します。

（休憩 午後 2 時 3 5 分）



（開議 午後 2 時 3 6 分）

（委員長） 再開します。

（水道課長） 採水する試験に出す水につきましては、同じ検体の水を、それを何項目を検査するかということは、同じ採水した水を使いまして採水する項目ごとにそれぞれの検査の項目が分かれるわけでございます、採水につきましては、もちろん毎月 1 日で済むかどうかはいずれにしても、検査の頻度につきましては、その項目が例えば 50 項目以上ござ

いまして、毎月 1 回の委託業務で一応検査はすることができます。

（阿部）答えになっていない。できますではなくて、昨年度は何回やったのだと聞いている。

（委員長）暫時休憩します。

（休憩 午後 2 時 3 7 分）



（開議 午後 2 時 3 8 分）

（委員長）再開します。

（水道課長）失礼いたしました。毎月 1 回、資料採取をして検査に出してございますので、年に 12 回でございます。

（阿部）では、確認すると、17 浄水場から毎月 1 回ということは、採取する数字というのは 17 掛ける 12 だ、そういう数字で認識していいのかな。

（水道課長）そのように、おっしゃるとおりでございます。

（委員長）ほかに質疑は。よろしいですか。

加藤委員ありませんか。

（なし）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第 120 号 平成 26 年度鴻巣市水道事業会計補正予算（第 1 号）について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第 120 号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第121号 平成26年度鴻巣市下水道事業会計補正予算(第2号)について執行部の説明を求めます。

(説明省略)

(委員長) 以上で説明が終わりました。

これより質疑を求めます。質疑はありませんか。

(阿部) 下水道ということでもって、いわゆる汚水ますから悪臭が出るとかというような苦情は寄せられたことというのはありますか。

(下水道課長) 下水の排水は、一般家庭のトイレとか台所とかから流されるわけですが、汚水ますからの悪臭もありますし、あるいは家庭の中の台所からおうとか、そういった苦情が間々ございます。

以上です。

(阿部) 道路を歩いているときに、ふわんと余り好ましくない香りがするとかというような苦情も中にはあるのかなと私は思うのだけれども、そういうのは今まで何回かありましたか。

(下水道課長) 道路上のマンホールのふたは現在密閉型のふたになっておりまして、ほとんど臭気は上がってきてはいないと思います。現に私も4月から下水道課職員になりましたが、道路上のにおいというのはそんなにはないというふうに聞いています。

以上です。

(阿部) そうすると、におってくるのはふたのしていない排水ありますよね、U字溝の深いやつとか、ああいうやつから発生するにおいとかがあろうと思うのだけれども、あれは下水道課がある程度苦情があった場合は、その対策をしてくれるのかな。

(下水道課長) 先ほどちょっと舌足らずで申しわけございませんでした。先ほどの私の答弁の内容は、公共下水のマンホールということです。それと、あと鴻巣地域には一般下水道といいまして、公共下水でないもう片方の下水道も道路上にございます。そのますは、コンクリートのふたとか鉄板のふたとか、一部確かに穴があいておりまして、そこからにおいも発生するというふうな状況も間々見受けられます。そういったときには、実際に中を調査しまして、詰まっているとか、流れないというよ

うな状況がございましたら、清掃をかけております。そういったような状況でございます。

（阿部）では、対策しているということですね。

（下水道課長）はい、そのとおりでございます。

（阿部）では、今後私がパトロールして歩いて、ここが臭いとか、あの場所が、あそこいらが臭いとかというのがあったら、ぜひ報告して対応願いたいと、このように要望にとどめておきます。

以上。

（委員長）ほかに質疑は。

田中委員、ないですか。

（なしの声あり）

（委員長）秋谷委員。

（なしの声あり）

（委員長）加藤委員。

（ありませんの声あり）

（委員長）以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありませんか。

（なし）

（委員長）次に、賛成討論はありませんか。

（なし）

（委員長）これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第121号 平成26年度鴻巣市下水道事業会計補正予算（第2号）について、原案のとおり決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

（委員長）挙手全員であります。

よって、議案第121号は原案のとおり可決されました。

以上で付託されました案件の審査は全部終了しました。

これをもちましてまちづくり常任委員会を閉会いたします。

なお、会議録の調製及び委員長報告の作成につきましては委員長にご一任願います。

大変ご苦勞さまでした。ありがとうございました。

（閉会 午後 2 時 4 7 分）